

## 令和5年度 市政に関する市民懇談会「塩原地区」概要

【日 時】 令和5年7月13日（木）午後2時～3時20分

【場 所】 ハロープラザ3階会議室

【参加人数】 16人

【市出席者】 市長、藤田副市長、企画部長、保健福祉部長、子ども未来部長、  
企画政策課長・情報戦略担当（事務局）

【テ ー マ】 ①まちの持続的発展のために  
②誰もが生き生きと暮らすために

【意見交換会（要旨）】

### ■テーマ① まちの持続的発展のために

**参加者：**旧金沢小学校の校舎について、避難所として存続したいとのことだが、すぐ裏山に大きな砂防ダムを2つ抱えており、避難所としての適性は低いと思う。後々、取り壊すにしても財源の確保が不安。今のうちに取り壊した方がよいのではないか。

**参加者：**旧金沢小は周囲に住宅地がないため、塩原太鼓の練習場としている。取り壊す場合は代替施設が必要となる。また、箒根学園に地域間交流室を作っていただいたが、災害時の活用など具体的な利用の仕方について、市と協議していきたい。

**市：**廃校の利活用については、資産活用担当部署で検討を進めている。地域間交流室については、デジタル化も研究しながら市民が使いやすくなるよう考えていきたい。

**参加者：**人口動態では、4号線と新幹線駅から離れるほど減少傾向だと思う。まず消防団の維持が困難。子どもが入ってる郷土芸能団体もできなくなってくる。

**参加者：**消防団員は著しく減少している。団員確保のため、市職員を率先的に入れられないか。女性消防団も作ったので、女性も入ることができる。団員を増やす政策も考えていただきたい。

**市：**人口動態は市内で二極化してきている。地域の持ち味を生かして、一部に集中しているのを均すような動線を作っていくことが重要。消防団員の減少は全国で問題となっている。昨年、警察・消防・消防団と住民も含めて避難訓練を行ったが、災害を切り口に自治会や消防団に関心を持ってもらえるような取組を行っていきたい。

■テーマ② 誰もが生き生きと暮らすために

**参加者：**生きがいサロンの参加の仕方がわからない。

**参加者：**生きがいサロンの運営について、補助金をもらうためには条件があるが、もっと柔軟な形でやっていただければありがたい。

**市：**再度 PR に努めるとともに、適宜相談に応じる。事業自体がフレイル予防を念頭に始まった経緯もあり、補助対象経費も多くの用途に使えるようになっているので、不明な点は連絡いただきたい。今年度、塩（えん）結び事業として、ズームなどの媒体を使った体操や健康作りを予定している。合わせてスマホなどが苦手な方向けのデジタル教室も進めていくので参加いただきたい。

**参加者：**生きがいサロンは、地域の見守り活動にも活かせることができ、高齢者が多い地区では大変ありがたい事業。ただ、制度や仕組みは新任の自治会長では理解していないため、その部分についても PR 等をお願いしたい。

**市：**PR 方法は工夫していく。見守り活動の関連で、フレイル予防は力を入れており、東電と連携したフレイル検知事業を、以前よりも規模を拡大して実施する予定。

**参加者：**コロナによる部活動の制約で、特に音楽部は困難な状況だった。子どもの貧困対策は、経済だけではなく心の豊かさもある。部活動は、縦の繋がり、保護者との繋がりなどがあるが、教職員の働き方改革もあり、みんなで一つのものを作り上げることから少し離れてしまっているようなところがある。

**市：**部活動の地域移行に関して、音楽関係はすぐには難しいかもしれないが、プロのオーケストラがコロナを機に地方に関心を持つようになっており、市で今すぐ何かできるわけではないが、将来的には事業であるとか、良質な音楽に触れられる機会を増やしていきたい。